

風光



保育大集会・議員要請に行ってみました ひまわり分会 遠藤 宜子

11月3日 保育大集会
日比谷野外音楽堂

「保育所作って待機児なくそう」「保育所の最低基準をなくすな」すべての子どもたちに行き届いた保育を求めて2800人が、日比谷野外音楽堂に集いました。日比谷公園に入ると「署名にご協力下さい」の長い列。署名しながら会場に入ると、黄色の風車やのぼり、ちょうちんやエンゼルの羽、黄色の帽子などでアピールしている人たちがいっぱいいます。

集会では各地・各分野からの報告がありました。「次男ができた」とわかった時から保育所探し。「生まれてから来て下さい」と言われ、退院したその足で区役所に行く、「もういっぱいです。あきらめて下さい。」と名前すら書いてもらえなかった。子ども手当てなどいりません。安心して預けられ、働ける保育園が欲しいんです。」と区立、認証保育所・保育ママなど探し歩いたお母さんの話が印象的でした。

気にも元気が付いてくれ、楽しく歩くことができました。



いっぱい宣伝してきました

政府・議員要請行動

二日目は政府・議員要請行動。永田町の社会文化会館に350人が集まり、会場からあふれるほどの人出でした。

私は内閣府少子化担当室との交渉・懇談に参加しました。開口一番「福島大臣は、保育の質を下げる様な事はしない意向を示している」と担当官から話され、心強く思いました。(しかし、次々に入ってくる、長妻大臣の回答など、どうなっているの?という感じ)

各地から実態を報告し、私も「最低基準を満たした保育をす

るのが難しい現状の中、改善はあっても緩和など考えられない」という話をしました。

午後からはみんなで手分けして433人の衆参両議員を訪問し、署名の紹介議員になってもらうよう要請しました。また、「この(議員会館の)部屋で2歳児2人と保育士3人が食事をして、遊んで、眠る生活をしていきます。さらに詰め込むのですか?」「障害者自立支援法は廃止するのに、同じ応答負担を保育分野に持ち込むのですか?」と訴えてきました。

誰もが、安心して子どもを生まれ育て、働き続けられるように、すべての子どもにも豊かな保育が保障されるように、保育者がよりよい保育を創造し、健康で働き続けられるように、現場の声をみんな国会に届けましょう!

厚労省前で訴えてきました!



風の音

秋が深まる、木々の葉が落ちて、空気が清々しく感じる。この季節、赤い紅葉、黄色の秋葉、空を舞う稲刈りの声、収穫祭の盛り上がり、秋の味。秋は一年の終わりを告げる季節。一年の振り返り、感謝の気持ちを込めて、秋を満喫しよう。秋は、静けさと心の安らぎをもたらす季節。家族や友人と一緒に、秋の景色を楽しもう。秋の味、心の安らぎ、家族の笑顔、友人の笑い声。秋は、一年の終わりを告げる季節。一年の振り返り、感謝の気持ちを込めて、秋を満喫しよう。秋は、静けさと心の安らぎをもたらす季節。家族や友人と一緒に、秋の景色を楽しもう。秋の味、心の安らぎ、家族の笑顔、友人の笑い声。

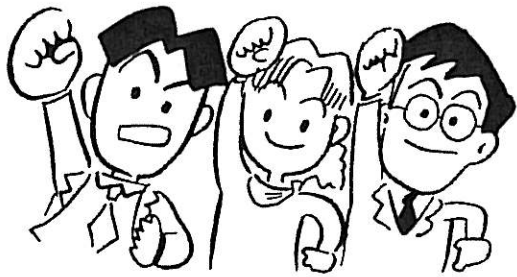
「初」『障害県交渉』

すずかけ分会 野村 一樹

10月20日に福保労に加盟してからはじめて「愛知県交渉」に参加しました。約1時間半の交渉で、及ばずながら私も現場の声を伝えましたが、県側は核心の部分を濁すばかりで正直、良い応答は返ってきませんでした。また、個人的にその後行われた保育の交渉に立ち会えたことは、とても貴重な経験となりました。普段はなかなか聞けない保育の現場の実態や抱えている課題などが鮮明に伝わってきました。

今回、初の参加で愛知県に障害・保育の現状を伝えていくことの難しさと同時に、この運動を続けていくことの意義を学びました。本来、愛知県は我々と手に手を取って国に働き掛けていかななくてはならないポジションであるにもかかわらず、そこが成し得ていないのは非常に残念です。だからこそ組合が粘り強く動いていかなければならないと考えます。「動かなければ何も変わらない」ということを痛感させられた1日となりました。

参加者の感想



名古屋市障害者関係

予算交渉に参加して

みなと福祉会分会

川又 宏樹

今回初めて名古屋市との予算関係における交渉に臨みました。実際に名古屋市障害者福祉施策における考え方、方向性に関して直接話を聞けることや、私たちの現場の実情・意見を発信する機会は少ない中で、貴重な体験が出来たことはとても有意義でした。利用者については、負担の軽減、認定調査を実態に即したものにしたいと訴えました。前向きな回答を得ることが出来ず残念でした。また、現場での深刻な悩みで

ある人材の確保に関しても、引き続き国に働きかけていく、実態の把握に努めたいというものでした。どの施設も人手不足に悩み、満足に休みが取れない現状を理解し、早急な抜本的改革を望みます。

もちろん、市の職員の方々も好転しない福祉の現状に苦心され、現状を変えるべく取り組みを多忙な日々の中模索していることと思えますし、そう信じています。ともに福祉を必要とする方々の生活を守るものとして、

だからこそ、私たち現場の「声」を伝え、要望を訴える今回のような場はとても大事であるし、今後もたくさん「声」を発信し続けるべきだと感じました。

愛知県 保育交渉に参加して

春日井福祉会分会

第1そだち保育園

長谷川 美帆

今年初めて保育協の幹事会に参加し、準備を進めてきました。初めは右も左もわからず、ただ会議に参加するだけになってしまい、大変申し訳なく思いますが、今回の交渉に参加した事で、

厚労省が11/4、地方分権改革推進委員会3次勧告に対する対応方針を出しました。

委員会の勧告が、各基準を自治体任せにしたのに対し、厚労省の対応方針は人員配置基準・居室面積基準・人権に直結する運営基準に限り、『条例の内容は「全国一律」の「従うべき」基準としています。多くの保育関係者の運動と「最低基準の撤廃が福祉や保育の質を落とす」という現場からの声が響き、厚労省も「最低基準の全面撤廃」を持ち込ませなかったのだと評価できます。

しかし、保育所については「東京等に限り」「待機児解消までの一時的措置として」「面積基準」のみ、地方自治体の判断にゆだねること認めました。また、国の基準を下回る場合にその水準に応じた報酬等を設定することにより「基準引き下げ」を容認しました。これは、国の報酬が下がれば、割合で出している地方自治体の拠出金額も下がるので、自治体が安上がりな福祉を進めることに道を開くことにもなる、という大問題が含まれています。

「要請ハガキ」を一枚の無駄なく出し切ろう！

また、95兆円にふくらんだ来年度予算案を洗い出す「行政刷新会議」は、無駄を削るための「事業仕分け」をすすめています。11月9日に公表された、220件、447事業の中には市町村に保育費の半額を交付する保育所運営費負担金(3621億)や延長保育事業(440億)が入っています。ここが削られたら、公私間格差は正制度などで独自補助を上乗せしている自治体はさらに厳しい状況においやられます。

議員が福祉・保育の現場のことをきちんと知っているかといえば、そうではありません。私たち福祉・保育で働く者以上に現場を知っている者は居ないのです。政治に向かって声を上げることのできない子どもや利用者になって、私たちは多くの人に知らせて行く存在です。運動の手をゆるめず、最低基準を守り、国の運営費負担金を守らせる運動をさらにすすめていきましょう。

マスコミに向かって、現場の意見を届けよう！

色々なことを感じ、学ぶ事ができました。

一番に感じたことは行政と、保育現場にいる私たちの「保育」の概念の違いです。保育は福祉であり、人と人とのつながりが大切です。私たちの要求に対し、愛知県の担当者の回答は釈然としな

いものも多く、愛知県の考え方に不安を感じることがも多々ありました。質の高い保育、公的な保育を守っていくために、保育現場を行政に知ってもらうために、現場の実態を生の声で届けていくことが必要だと強く感じました。

自治体交渉



名古屋市

認可園交渉の感想 めばえ分会 萩原 千晴

まず、部屋に入り沢山の人の

驚きました。同時に今の保育の現場の要求が高まっているのだなと改めて感じました。各園の今の現状を生の声で発言して、どこの保育園も厳しい中で日々生活していること、明日の保育を良くして欲しいこと、市の職員の方によく伝わったのではないのでしょうか。

しかし、名古屋市側の回答は、はっきりと「極めて厳しい」ということを話していました。その言葉が何度も出てくる中で、本当に厳しいのだと肩を落としてしまいました。一番頭に残っている言葉は、「13万人の署名よりの市長選挙の51万人の方が重いのだ」という言葉です。厳しい

シリーズ

わたしのおすすめ 第二めいほく分会 加藤友久枝

私のおすすすめは、時々非日常を織り込むことです。私の場合は、一つはライブに行くこと。好きなアーティストの世界に浸り、リフレッシュしています。

よく行くのはアカペラグループ「チキン・ガリック・ステーキ」(テレビにはほとんど出ていないですが)、美しいハーモニーと関西弁の楽しいトークにはまっています。時に名古屋以外にも出かけます。もう一つは、外国語(韓国語)に触れることです。



日常にない言語を読み・書き・話すのは気分転換になります。覚えにくく忘れやすいのでなかなか上達しませんが...。しかし、当初の目標だった「自分の言葉でファンレターを書く」のは実現したので、次は定年後の短期留学(?!?)を目指し、細く長く学び続けたいと思います。ちなみに、どちらの趣味も、仲間ができること更に楽しみが増えました。プライベートでもやはり仲間って大切だと思います。

い中で必死に集めた署名をこの一言でかたづけられてしまい、悲しくなっていました。

でも、例え少数の意見と言わなくても、現場の事は現場にしか分からないと思います。この思いが届く日が来ると信じて、声をあげていかなければならないと感じました。



名古屋市内認可保育所の予算交渉では、100人以上の参加者で女性会館視聴覚室を埋め尽くしました。(写真は08年の様子)

名古屋市

無認可交渉について

道徳たけの子共同保育所分会
田中 佳子

今年の名古屋市の無認可交渉はとうとう道徳たけの子共同保育所だけになってしまい、名古屋

屋市側から組合と共保連の交渉を合同で行いたいとの申し出がありました。

しかし、組合の交渉と共保連の交渉では、訴える視点が違うので、安易に一緒に出来るものではないように思い、保育協の役員の方々と懇談をし、今年度については今まで通りに別々で行うことにしました。実際はそれぞれ別の交渉を名実共に有意義な交渉に出来るかどうかは大変不安でした。

しかし、どちらの交渉にもたくさんの親の方、組合の仲間が集まってくれました。多くの人たちに支えられてこうして自分たちが好きな仕事を続けられていることを今まで以上に実感し、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

共同保育所の運営や将来展望は決して楽ではありませんが、一つ一つの課題に丁寧に向き合い、笑顔で進んでいきたいと思えます。これからも応援よろしくお願ひします。

「福祉を削るな！」の集会に結集しよう！
市・11月16日(月)12時～名城東小公園
県・11月25日(水)8時/17時～県庁前
☆平日ですが、多数の参加を待っています☆

読書に運動、そして学習の秋です

～労働組合講座 & 拡大支部交流会「私たちの賃金は良くなる!!」～

ひまわり分会 寺坂 渉

みなさんは自分の賃金に満足していますか?同じ年代の人で、一般企業の人にもっともらっているのに、どうして自分の賃金はこんなに低いのか?と思ったことはありませんか?みなさんが一度は感じたことがあるこの疑問…それにお答えするのが、今回の労働講座と拡大支部交流会のタイアップ企画「私たちの賃金は良くなる!!」です。

先回9月10日に行われた拡大支部交流会の「介護・障害職場を知ろう!」は60人以上の参加者と、多くの未組織職場の方もみえて、大成功でした。今回の企画では、労働講座と一緒に、あの「太田よしろう」さんを講師に招いて、私たちの賃金がどのように決まってきたのか、社会的な仕組みを解き明かしながら、これからどうすれば良くなっていくのかなどを一緒に考えていければと思います。

「好きで選んだ仕事だから賃金のこと文句はいえないかなあ…」なんて遠慮なくいいんです!業種別の賃金ランキングからわかる自分たちの職種の賃金順位や、日本以外の国での例など、「えー!!!」「そうなんだあ」と驚いたり、納得したりする中身が盛りだくさんなので、遠慮はなくなるはずですよ!興味のある方はぜひ参加のほどをよろしくお願いします。もちろん未組織の方の参加も大歓迎です!皆さん誘い合ってご参加下さい!

日時 12月10日(木) 19時～21時

会場 労働会館本館2階会議室 参加費無料です!



労働講座のご案内 (各回 時間: 19時～21時 会場: 労働会館2階会議室)

- | | | |
|-----|-----------|-------------------|
| 第1回 | 11月24日(火) | 「組合って何」 |
| 第2回 | 12月10日(木) | 「私たちの賃金は良くなる!!」 |
| 第3回 | 12月22日(火) | 「今そこにある格差と貧困を考える」 |
| 第4回 | 1月21日(木) | 「福祉・保育的 身体の動かし方」 |
| 第5回 | 2月5日(金) | 「仲間がいるって嬉しいね」 |



昨年の労働組合講座の様子
ストレッチをしているところです

各分会・執行委員から運営委員を募り 今年も労働組合講座を開くことになりました!

「私たちは何が学びたいのか」を話し合い、若者からベテランまでが講座を通して学習して、働く事・組合のことを考えあい、気持ちを一つにした活動につながるような講座内容を考えました。

全部で5回行い、初回は組合の意義から言葉の意味までわからないことをスッキリさせて、誘われるままに組合に入った若者も、みんなが自ら活動に向かっていけるような元気の出る講座からスタートします。

第2回・3回では、福祉職場で働く私たちの抱える労働面、賃金面での苦しい実情から、社会的なお金の仕組みを明らかにしながら、社会の貧困問題や格差について考えていきましょう。活動の中で私たちの賃金はよくなります!

第4回・5回では、元気に仕事・組合活動に取り組めるように、健康に働き続けられる体の使い方を、実際に体を動かしながら学び、今まで福保労が全国で果たしてきた役割から福祉保育労の未来を考えていきます。講座に出た後にはきっと「仲間がいるって嬉しいね」を実感できるはず。一緒に学習してみませんか?

新瑞福祉分会 石島 佳代



【編集後記】
忙しかった運動会の季節も終わり、また署名の季節がやってきました!ふっと1年前の事を思い出したら、自分の世の中の的にも本当に変化の大きかった1年でした。このまま変わっていくとどうなるんだろう...と不安があります。11・3の東京での集会に参加して、全国の話聞きまわりました。今まで聞いても実感のわかなかった話も、実際に聞いて衝撃をうけました。このままではいけない!とあらためて思いました。その一方で変わらないのは昔から知っている近所さん。署名をもつていに行くと「署名だと思ったよ」と快く署名してくれました。そんなとき、たくさんしゃべって帰ってきます。この繋がりを大切にしたいです。
(苗)